

W杯サッカー06

院長

2002年の日韓ワールドカップ(W杯)・サッカーの記事を掲載しましたが、熱く燃えた今年のW杯についても書いてみます。皆さんのW杯への興味はどうでした。ワールドベースボールクラシック(WBC)の時も書きましたが、古い人間なのか、日本代表というと愛国心が芽生えどうしても燃えてしまいます。

御承知のように予選リーグはグループFで、オーストラリア、クロアチア、ブラジルが対戦相手でした。事前の下馬評では、我が日本のグループリーグの突破はかなりの確率の高さでした。この評価は国内のもので、試合が近づいてくると従い海外の評価は次第に低くなってきました。W杯に臨む日本代表は30日開催国ドイツと親善試合を行い、高原選手が2ゴールを決めて2-2で引き分けました。従来から言われている決定力不足という点からは、何か本戦でも期待を抱かせるような結果となりました。

いよいよ、予選リーグ。6月12日の第1戦の相手は、オーストラリア。試合に当たって日本代表のユニフォーム着用の予定でしたが、会議などの忙しさに紛れ購入できなかったのは残念でした。日韓W杯では、ユニフォームを着ながら診療をしていたのに。4年ぶりのW杯の興奮からか、1時間も前からテレビにくぎ付けとなりました。格下の評価の相手にもかかわらず、序盤は完全にオーストラリアペース。しかし、GK川口選手がスーパーセーブを連発。本当に「危ない…」の連続でした。その後、守備を固めながら苦しい時間帯をしのぐと、カウンターから徐々に盛り返し、中村選手が先制ゴール。この瞬間、それまでの劣勢も忘れ、気持ちは一気に予選リーグ突破へ。後半は、冷や汗をかきながらの観戦。ロングスローをきっかけに後半39分、「あれ?、川口どうした」との声とともになんとついに同点に。日本チームの体力の限界とあきらめからか、日本は終盤まで勝利を手にしながらも1-3の逆転負けで、初戦を落してしまいました。予想もしない敗戦に大きなショックを受け、以後ユニフォームを買う気力も生まれ

ませんでした。初戦を落したことで、予選リーグ敗退は濃厚なものとなりました。続く6月18日のクロアチア戦、両チームともチャンスを活かせないまま結果的には0-0の引き分け。これで、予選リーグ敗退は決定的なものとなりました。しかし、そこであきらめないのが愛国心、ブラジルとの最終戦に向けて、早めのお休み。甘い期待の中朝4:00には、遠足に行く早起き少年のように一人だけテレビの前で待っていました。前半34分、ちょっとした隙をついた玉田の先制点で、予選リーグ突破の夢も。しかし、その後の展開で夢はやはり夢でしかないことを痛感。ブラジルとの実力の違いを、いやというほど見せつけられてしまいました。




WBCのイチロー程ではなかったにしても、中田英寿は本当によくチームのために頑張ってくれました。時々チームメイトとぶつかり合いながら、本当に日本のために力を尽くしてくれました。ガムを噛みながらプレーしていたN選手とは、大きな違いでした。クロアチア戦後の「勝てる試合をもう1度落としたな」という感じ。チャンスをちゃんと決められなかった。正直、勝てるチャンスは十分あった。非常に残念です」が、印象的でした。どの試合でも全力で望み手を抜くことなく、人一倍動き回っていました。ブラジル戦での獅子奮迅の働きは見事としか言いようがなく、精も根も尽き果てたのか、人目もはばからずピッチに横たわっていた姿は何を意味していたのでしょうか。大きな何かを失った中田選手が涙を流していたように見えたのが、妙に印象的でした。

残念ながら、予選リーグでは1勝も出来ず敗退。やはり世界との実力の違いを思い知らされた。ジーコ監督は何を残してくれたのでしょうか。中田選手だけが光った、ワールドカップのような気がしました。スポーツは団体戦であっても、ともすれば個人の技能が優先される風潮があります。もちろん個人の技能の修練は必要ですが、個人の持っている能力を十分に引き出すことが監督やコーチの力です。

どうしても立場上、小児科医としての思いが浮かんできます。子どもの持っている力を十分に引き出す、これが育児の基本かもしれません。子どもたちにとっての監督やコーチは、お父さんやお母さんなのです。そして我々も、サポーターとして子どもたちを応援していきたいものです。

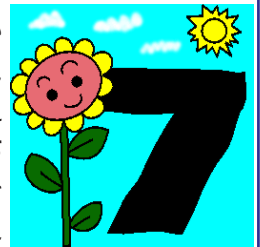
7月のお知らせ

- ・栄養育児相談
毎週水曜日 13:30~
栄養士担当
- ・夏期休暇について
詳しくは2面を!



読者の広場

6月は17通のメールを頂きました。まずは泉区のIさん（匿名希望です）からのお礼のメールを紹介します。「14日水曜日夕方に1カ月の娘が発熱、うえの子2人を連れて受診した〇〇の母です。（中米さんという看護婦さんお電話下さったのですが授乳中ででられずかけ直したら木曜で受付終了後でした）引越越しをしてしまったのと、うえの子たちがなかなか体調を崩すことがあまりないので徐々にそちらを伺いました。先生にみていただき気をつける点のメモのような症状がないかと常に確認。しかし発熱も受診したときのみで自宅に戻ると平熱。さらに母乳を120、1時間後には110を飲み長く寝ました。夜中も発熱はなく、やはり母乳を沢山飲み、いつもの娘に戻りました。今回1年ぶりに受診しましたが、丁寧に説明してくださる先生。今から5年前に今年6才になる娘がはじめて受診したことを思い出しました。頭に脂漏性湿疹がでてどこの病院へいっても説明も薬も同じでよくなりず、当時の実家の近くにあり受診。先生の丁寧な診察・説明・ホームケアの仕方を教えていただいて、当時娘の湿疹に悩んでいた私でしたが、とても救われました。しばらく通いおかげさまで良くなりました。今回受診し、当時のことを思い出させてくれた先生。私はその後子供が2人増え3人の母になりましたが、先生にいろいろと受診するたびに教えていただいたことがとても役に立っています。ありがとうございました。」。久しぶりの受診で昔のこと思い出してもらって、とても嬉しく思います。まして、その後のお子さん達に役立っていると聞いて、余計に嬉しくなっていました。このようなことは、メールをもらわないと全くわかりませんね。本当に、ありがとうございました。他にもメール頂きましたが、プライバシーに関わる部分もあり、残念ながら紹介はできません。もうひとつ、診療に対する疑問がありました。当院を受診しながら症状が改善せず2日後に他の病院へ行き、すぐ入院になったということに関しての疑問でした。当院の診療の基本（どのように患者さんを診て、どのように対応し、どのような治療方針なのか）を、くわしく御返事差し上げました。とても大事なことなので、紙上で紹介をともしましたが2000字もあるので掲載は難しいかも知れません。機会があれば、是非掲載したいと思います。疑問点なども含めて、何かあれば遠慮なく問い合わせして下さい。



予防接種の変更に関するお知らせ

先月も紹介しましたが、4月1日から予防接種法が変わりました。6月2日に再び改正になったので、内容を紹介します。

- (1) 生後12ヵ月～24ヵ月未満で以下に該当する方
混合ワクチン以外に、単抗原も定期接種に。
- (2) 小学校入学前の1年間

第1期接種者以外に、単抗原ワクチン接種者も含む。

経過措置接種(単抗原ワクチン)：仙台市民のみ

- ・ 生後24ヶ月～36ヶ月未満で以下に該当する方
先日の案内通り（任意接種）、費用は仙台市負担。

36ヵ月～5才未満は定期接種から外れ、接種は任意接種、費用は自己負担となります。詳しくは院内掲示をご覧ください。不明な点はスタッフまで。

ジャワ島地震に対する救援募金について

先月号の編集後記に記載しただけですが、ジャワ島地震の募金が集まりました。クリニックの分を加えて、**12,960円**を送金しました。ご協力、ありがとうございました。

お母さんクラブの御案内 新規会員募集中

7月20日（木） 14：00～ 福沢市民センター
ボランティアグループかぼちゃ畑さんによる「絵本の読み聞かせ、手遊び」など、子どもとのコミュニケーション作りを学びましょう。今回は、会員以外の方の参加も可能です。興味ある方や参加希望の方は、受付まで。

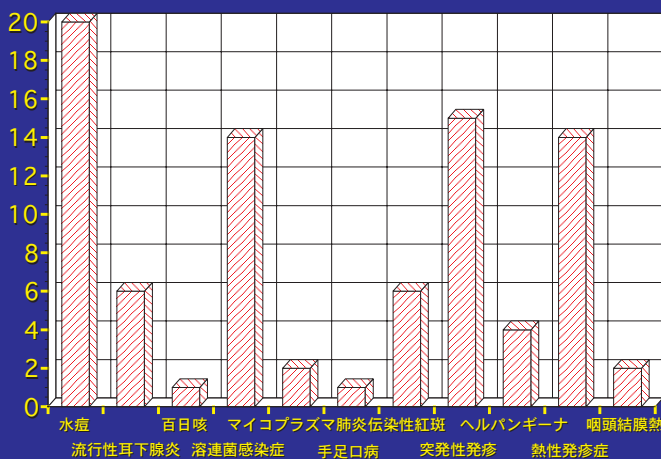
TV取材と放映のお知らせ

7月11日(火) 13：30頃から「プール熱」について、東北放送のTV取材が入ります。インタビューなども含め、皆さまに御迷惑をおかけすることもあります。よろしく、御協力お願い致します。尚放送は、7月13日(木) 18:16～の東北放送『イブニングニュースTBC』の予定です。是非、ご覧になってみてください。

夏期休暇のお知らせ

スタッフの慰安をかね次の期間がお休みになります。
8月14日（月）～19日（土）
御迷惑をお掛けしますが、よろしく、御理解とご協力をお願い致します。

6月の感染症の集計



水痘は20人みられましたが、それでも減少傾向です。溶連菌感染症も減少傾向で、おたふくは横ばいです。夏カゼのヘルパンギーナ、咽頭結膜熱（プール熱：TV見て下さい）が増えてきています。咳がひどい患者さんの中に、マイコプラズマ肺炎もみられています。時々問い合わせがあるインフルエンザは見当たりません。百日咳が久しぶりにいました。

編集後記

奈良県でおきた医師一家放火殺人事件は、ある意味では非常に身近な事件です。16才の少年はかなり追い込まれていたのでしょう。殺人という罪が許されるものではありませんが、処遇に配慮してほしいと思います。本人や父親の気持ちを考えて、本当に心が痛む悲しい事件です。



院長著書「小児科医がやさしく教える 赤ちゃん子どもの病気」の再版にご協力を。
詳しくは [かわむらこどもクリニックHP](http://www.kodomo-clinic.or.jp)(<http://www.kodomo-clinic.or.jp>)を